

■ 2008年(1月～6月)活動報告 ■

第7回親子交流会inプラザ

6月29日(日) iスクエアビルにて

テーマ「あした天気にな～れ！」

- ◆前日から未明までの大雨で心配しましたが、イベントテーマの「あした天気にな～れ！」の願いがかない雨もやみお天気になりました。1,200人を越える親子連れがプラザを訪れて、各団体の色々な催しを楽しみました。
- ◆ユニセフのブースでは、「ユニセフすごろく」「おたのしみくじ」「パネルの展示」などをしました。「ユニセフすごろく」には300人の子どもたちが参加して、ユニセフの活動について遊びながら学びました。順番待ちの列は途切れることはありませんでした。
- ◆「おたのしみくじ」では、学生ボランティアさんの「1回のくじで5人の子どもたちに1年分のビタミンAをおくることができます。」との呼びかけに多くの子どもたちがくじ引きゲームを楽しみました。

ボランティアの皆さんの声

- ◆地雷や経口補水塩など自分自身が知らないことばかりだったけど、スタッフの人から教えてもらって、子どもたちに説明することができた。子どもたちと一緒に勉強できて楽しかった。
- ◆今まで小さい子どもたちに接する機会がなかったけど、今日たくさん子どもたちと一緒にすごろくゲームを楽しめてよかった。



大きなサイコロをころがして



地雷コーナーでのお話



おたのしみくじコーナー「
大当たり！」



ORS(経口補水塩)
コーナーでのお話



身体計測コーナー
「大きくなっているね」



水がめは重たい！

神崎市放課後子ども教室ドリームパーク

テーマ：水から世界を考えよう

6月18日(水) 千代田東部小学校にて

- ◆神崎市子どもの居場所づくり実行委員会では、国の委託を受けて神崎市内の7小学校や公民館で、放課後や週末、いろいろな体験活動、世代間交流ができる居場所づくりを進めています。
- ◆千代田東部小学校ドリームパークの子どもたちは(1年～5年)は、「水から世界を考えよう」というテーマで学習しました。「みず・水クイズ」で水に限られた資源であることを知ったり、「水を求めて」で世界の子どもたちがどのようにして水を手に入れているかを見たりした後、ネパールの水がめを使っての水運び体験やスペシャルドリンク作りをしました。



スペシャルドリンクを作ろう

学習を終えて

- ◆水があんなに重いとは知らなかった。水運びはとてもきつかった。
- ◆世界では水に困っているところがあることは知っていたけど、あんなにたくさんの方が水に困っているって初めて知った。
- ◆顔を洗うとき水を流しっぱなしにしていたけど、今度からはちょこちょこ止めようと思った。
- ◆脱水症から子どもたちを救うORS(経口補水塩)が6円って、びっくりした。10円あれば買えるのでびっくりしました。
- ◆ドリームパークに来ていないお友だちに今日のことを教えて、水についてこれから一緒に調べてみたい。



水がめは重いから二人で運ぼう

イオン「幸せの黄色いレシートキャンペーン」贈呈式

6月7日(土) ジャスコ佐賀大和店にて

- ◆イオンでは、お客さまとともに環境保全・社会貢献活動を考え行動する日として、毎月11日を「イオン・デー」と制定しています。「イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン」はその活動の一環です。
- ◆その毎月11日のイオン・デーには、地域のボランティア団体など



の名前と活動内容を書いた投函BOXがお店に置かれています。この日に、買い物をし、レジ精算時に受け取った黄色いレシートを応援したい団体の投函BOXへ入れると、購入金額合計の1%が地域ボランティア団体などに希望する品物で寄贈されます。

- ◆佐賀県支部でも、半年に一度キャンペーンに参加、ユニセフのBOXを用意していただいております。このたび、2007年9月～2008年2月の期間中にイエローレシートBOXにご協力いただいた分として、A4コピー用紙13500枚寄贈されました。おかげさまで事務局では、そのコピー用紙の代金分を募金とさせていただきます。ご協力ありがとうございました。

ユニセフ パネル展、グッズ頒布 & 中国大地震緊急支援募金

国際ソロプチミスト有田認証20周年記念講演会

6月2日(月)「アグネス・チャン講演会」会場にて(炎の博記念堂にて)
中国大地震募金コーナー



署名コーナー



中国大地震募金コーナー

- ◆陶都の有田炎の博記念堂にてで開催された、国際ソロプチミスト有田認証20周年記念講演会では、日本ユニセフ協会大使アグネス・チャン氏の「小さな命からの伝言」の講演がありました。
- ◆講演が終わるとたくさんの皆様がユニセフのコーナーにおいでくださり、グッズや募金のご協力、「なくそう！子どもポルノ」の署名のご協力をいただきました。中国大地震緊急支援募金には83,325円ものご協力をいただきました。関係者の皆さま、ご協力いただいた皆さまに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



グッズ頒布コーナー

ユニセフ パネル展、グッズ頒布 & 中国大地震緊急支援募金

6月1日(日) 第24回鹿島ガタリンピック会場にて
(鹿島市七浦海浜スポーツ公園)

- ◆有明海の干潟で繰り広げられるガタリンピックには13ヶ国からの参加があり、2,000名の選手がドロンコまみれになって競技を繰り広げました。会場には35,000人の来場者があり、大変賑わいました。
- ◆ガタリンピック実行委員会では、中国四川大地震緊急募金に取り組んでくださいました。地元中学生をはじめ多くのボランティアの皆さんは、ユニセフの青い募金箱を持って会場をまわり、募金協力を呼びかけました。来場者の皆さまからご協力いただいた募金は総額105,044円にもなりました。ご支援ご協力いただいた全ての皆さまに、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



実行委員会より募金の手渡し



地元中学生のユニセフボランティア



会場をまわって募金の呼びかけ



～干潟に、はまればG遊人～

募金贈呈式

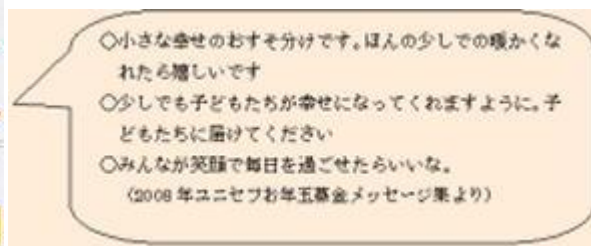
5月28日(水) 三養基郡みやき町立中原小学校にて

- ◆みやき町立中原小学校5・6年生の運営委員のみなさんは、全校の皆さんにユニセフ募金協力をよびかけました。5月14日から16日までの3日間、朝の時間と給食の時間に募金活動をし、12,073円の募金が集まりました。今朝の放送朝会で「世界の困っている人々を助けるために使ってください。」と募金の手渡しがありました。
- ◆また、以前より取り組んでいた使用済み切手3,850gを、ユニセフを支援する会母子草のボランティアさんへ手渡されました。

コープさが ユニセフ募金贈呈式

5月27日(火) 佐賀市文化会館にて

- ◆コープさが第18回通常総代会にておいてユニセフ募金贈呈式が行われました。コープさが生協ではお年玉募金や店頭の募金箱に寄せられた351,477円の募金をユニセフ協会佐賀県支部太田記代子常務理事に手渡されました



お礼を述べる太田常務理事

ユニセフグッズの頒布 & パネル展示

5月25日(日) 唐津市高齢者ふれあい会館 りふれ

第39回『青年の日』

第14回チャリティーフェスティバル ～愛を集めよう 愛を届けよう～

- ◆世界の貧困や、飢餓、感染症、戦争、テロ、差別など様々な問題に苦しむ人々に対して無関心ではいられない、すべての命が尊ばれる世界を願おうと、今年は会場を変えて「りふれ」で、多くの市民の皆様のご参加のもとに開催されました。
- ◆フェスティバルは、アジア4カ国(ネパール・カンボジア・フィリピン・東ティモール)における初等教育普及事業支援・地域社会福祉協議会への賛助・ミャンマーサイクロン緊急支援・NPO/NGO団体支援のために実施され、平和の集いやバザー、佐賀県内外8つのNPO/NGOの活動紹介、「マザーテレサ」上映、バンド演奏等があり賑わいました。
- ◆ユニセフグッズのご紹介ブースには5レンジャーも応援に駆けつけて盛り上げていただきました



ユニセフ出前授業

神崎市放課後子ども教室ドリームパーク

テーマ：水から世界を考えよう

5月21日(火) 背振中央公民館にて

- ◆神崎市子どもの居場所づくり実行委員会では、国の委託を受けて神崎市内の7小学校や公民館で、放課後や週末、いろいろな体験活動、世代間交流ができる居場所づくりを進めています。
- ◆背振小学校の子どもたちは隣の背振中央公民館に集まって「水から世界を考えよう」というテーマで学習しました。「ユニセフと地球のともだち」のDVDや、世界の子どもたちがどのようにして水を手にしているかを見た後、そばを流れる城原川に水汲み体験に行きました。



学習を終えて

- ◆川に行くと水がめに水を入れるのがむずかしかった。DVDで見たときは簡単そうだったけどやってみるとむずかしくてとても重かった。
- ◆石けんであわをたてて手をこすっているとき水を出しっぱなしにしていた。今度から石けんで手をこすっているときは水をためて、石けんを流すときに水を出すようにする。
- ◆世界にはきれいな水がないところがたくさんあってびっくりした。
- ◆よその国で作られているバナナとかかぼちゃには、よその国の水が使われていることを初めて知った。

第15回 ユニセフチャリティーバザー

～ ミャンマーサイクロン緊急支援バザー ～

5月17日(土)午後2時～3時 佐賀玉屋デパート南館西側アーケードにて



- ◆会員・支援者の皆様からお預かりした500点余りのバザー品を仕分けし、お客様がお求め安く、なお且つ1円でも多くの募金になるようにしたいという難しい値付け作業をボランティアさんたちは楽しくすすめてくださいました。
- ◆2時のオープン前からお客様が集まりバザーの始まりを待たれました。みんなでカウントダウンをしてバザーの開始です。



- ◆「ミャンマーではサイクロン発生前から130名のスタッフが常駐していて、子どもたちの為の活動をしていました。ユニセフ・ミャンマー事務所では日本人医師も活動しています。ユニセフの支援は、確実に子どもたちの元に届いています。皆様のご協力をお願いします！」とお客様に呼びかけました。
- ◆バザー会場の一角では募金活動もしました下校中の高校生も自転車を停めて募金協力をしてくださりました。



- ◆バザー品を快くご提供くださった皆様、「HPで見ました。」「ユニセフニュースで見ました。」と、関東・関西などの遠方から送料をご負担して送ってくださった皆様、仕分け・値付け・販売など色々な形でお手伝いくださったボランティアの皆様、そしてお買い上げくださった多くのお客様、会場をご提供くださった佐賀玉屋デパート様、みなさまに心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。
- ◆バザー・募金を合わせた総額は178,540円にもなり全額ミャンマーサイクロン緊急募金とさせていただきます。ありがとうございました。

第105回有田陶器市 ～『新生有田』人と器の新しい出会い～ 募金・署名活動&ユニセフグッズの頒布

5月3日(土) 今右衛門古陶磁美術館前にて(有田町赤絵町)



- ◆全国各地からのお客様20万人の人出で賑わう有田陶器市会場の中ほどにある今右衛門古陶磁美術館前で、募金活動と「なくそう！子どもポルノ」の署名活動、ユニセフグッズの頒布を行いました。
- ◆佐賀大学・西九州大学の学生さん、福岡市から応援にきてくださった方など総勢19名のボランティアさんが、真夏のように暑い中、大きな声でユニセフ募金や署名、グッズのご協力を呼びかけました。

ボランティアの皆さんの声

- ◆今回、初めてボランティア活動に参加しました。主に募金を担当しました。初めのうちは声を出すことが恥ずかしく自信がありませんでした。しかし、「暑いのに大変だね。頑張ってるね。」と声をかけて募金に協力してくれた人の心の温かさに触れ、少しずつ声を出せるようになり自信も出てきました。今日のボランティア活動を通じて多くの人々の心の温かさを感じることができました。本当にいい経験ができてよかったです。
- ◆募金を担当しました。たくさんの方が協力してくださって募金箱がだんだん重くなっていくのが嬉しかったです。有田陶器市も初めてでとても楽しかったです。
- ◆主に署名を担当しました。署名をしてもらうのはなかなか難しかったです。支部の人からもらっていた「なくそう！子どもポルノ」の資料を読んでいたもので、署名してくれる人に少し説明することができました。私自身が「子どもポルノ」について全く知らなかったのでいい勉強になりました。兵庫県や山口県など遠くからのお客さんにも署名してもらって、大変だったけど嬉しかったです。

ユニセフパネル展

4月20日(日) 第23回花みずき茶会にて(佐賀市金立山いこいの広場)

- ◆さわやかな緑の風がわたるなか、「第23回花みずき茶会～平和への祈りをこめて～」が開催されました。主宰の岩橋宗厚先生はユニセフや国際ソロプチミストを通して、困難な状況下にある子どもたちへの支援をしておられます。
- ◆会場にはチャリティー箱が置かれお客様がお気持ちを入れておられました。待合にはパネル「ユニセフの願い」を展示し、お客様にご覧いただきました。



イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン

4月11日(金) ジャスコ佐賀大和店にて

- ◆ジャスコ佐賀大和店では、毎月11日のイオン・デーに地域のボランティア団体の名前を書いた投函BOXがお店の出入りに置いてあります。この日は、お客様がレジ精算時に受け取られた黄色いレシートを応援したい団体の投函BOXへ入れていただくと、お買い上げ金額合計の1%が地域ボランティア団体などに希望する品物で寄贈されます。
- ◆本日は佐賀県支部のスタッフが、お買物帰りのお客様に黄色いレシートのご協力を呼びかけました。



募金贈呈式

3月18日(火)川上小学校

- ◆佐賀市立川上小学校有缶クラブ(13人)の皆さんは、北部児童センターでの活動でユニセフを知り、「自分たちにできること」として、プルタブ集めをしました。皆さんから協力してもらったプルタブを換金した700円の募金を世界の子どもたちのために使ってください。」と贈呈されました。

JA佐賀県女性組織協議会 愛の募金贈呈式

3月12日(水) 佐賀新聞社にて

- ◆JA佐賀県女性組織協議会では、昭和54年の国際児童年を契機に毎年「愛の募金」活動に取り組まれています。「愛の募金」活動は今年度で29年になり、これまでユニセフと佐賀県内の各施設に、部員の皆様の善意を届けておられます。
- ◆今年も「子どもたちの幸せのために役立ててください。」と171,179円の募金を日本ユニセフ協会佐賀県支部中尾会長に贈呈されました。



事務所訪問

3月3日(月)佐賀県支部事務所



- ◆立命館アジア太平洋大学(APU)の学生さんが「ボランティアと国際支援」について学びたいと事務所を訪問されました。
- ◆「この人ってボランティア?」「一枚の看板」などを教材として、テーマについて話し合いました。

学生さんの感想

- ◆「ボランティアと国際支援」についてよく友人と議論します。今日の話は役に立ちました。学校に帰ったらまた友人と今日学んだことで話したいと思います。私は途上国の子どもたちの教育に関心があります。子どもたちが生きるための基礎的な知識や技術を持てるようにするにはどうしたらよいか、これから勉強していきたいと思っています。

募金贈呈式

3月1日(土) 北部児童センター

- ◆2月16日、大和町の川上、春日、春日北の三小学校4～6年生で作るきらめきジュニアボランティアスタッフと次世代の3年生からなる実行委員会が、子ども祭でバザーを行いました。
- ◆その時の売り上げの一部15,401円を「世界の子どもたちのために役立てて欲しい」とユニセフへ募金してくださいました。
- ◆当日はとても寒い日でしたが、504名もの多くの方の参加があり、大変盛況だったそうです。



ユニセフ募金活動

2月29日(金) 上峰サティにて 上峰小学校6年生

- ◆上峰小学校6年1組の皆さんは(38名)、1月23日のユニセフ出前授業の後、学級で話し合って募金活動を計画しました。
募金活動の目的は3つです。
 - ①世界の子どものことを多くの人々に知らせる。
 - ②募金のお金で一人でも多くの子どもの命を救う。
 - ③この募金活動をぼくたちの「はじめの一步」とする。



- ◆子どもたちは手づくりの募金箱や小さな子どもたちへの手づくりの「ありがとうカード」を持って、大きな声でお買い物の皆さんへ募金協力を呼びかけました。佐賀県支部のスタッフも応援に駆けつけました。地域の皆様のたくさんのご協力をいただき、74,848円もの募金が集まりました。

募金活動を終えて

- ◆たくさんの方が募金してくれて、優しい人が多いんだなあと思った。うれしかった。
- ◆募金活動をして終わりではなく、これからも世界の子どものことを忘れないでおうと思った。



ユニセフ出前授業

2月27日(水) 大川市立木室小学校6年生

- ◆6年生の皆さんは、社会科「世界の人々とともに生きる」で、国際協力の様子及び平和な国際社会の実現に努力している国際連合の働きについて学習しています。その中でユニセフの活動を具体的に調べています。
- ◆今日は、「食料・エネルギー分配ゲーム」等を通して、自分たちの暮らしが他国の人々とのつながりの上に成り立っていることについて考えました。さらには、様々な困難な状況下で暮らす自分と同じぐらいの子どもたちの現状について話し合いました。



学習を終えて(後日寄せられた感想文から)

- ◆私はユニセフの話聞いてとてもビックリしました。今、こうして手紙を書いている間にも世界には何人もの子どもたちが亡くなっているということ、むりやりに武器を持たされ戦わされている子がいるということ…。普通に楽しく暮らしている私たちには考えられません。私は学校の委員会でユニセフ募金を集めました。でも、意味も知らずにただ「お金が集まればいい。」と思っていたけど、今日話を聞いて、ユニセフは世界中の子どもたちを助けるとても“大切なもの”だと分かりました。私には外国に行き困っている人を助けることはできないので周りの人と仲良くする、ゴミを捨てない、食べ物や電気のムダ使いはしないなど、自分でできることをやっていきたいです。色々教えていただきありがとうございました。
- ◆私の将来の夢は、赤ちゃんが好きなので助産師になりたいです。でも、他の国の赤ちゃんを見ていると涙が出そうでした。私は、まず生まれて生きているということがどんなに幸せかがよく分かりました。これからは自分のできることをできる限りやっていきたいと思います。私たちにユニセフの活動を教えてくれてありがとうございました。

ユニセフグッズ頒布

1月30日(水) 炎の博記念堂(西松浦郡有田町)

- ◆国際ソロプチミスト有田認証二十周年記念「島田洋七 講演会」会場においてユニセフグッズの頒布をしました。グッズ価格の半額が現地での子どもたちの支援になることとお話し、ユニセフグッズへのご協力を呼びかけました。
- ◆会場には1,000人を越える人々がおいでになり、がばいばあちゃん語録・島田洋七語録を楽しまれ元気をもらわれました。



ユニセフ出前

1月28日(月)武雄市立山内東小学校

- ◆6年生の皆さんは、総合的な学習の時間に、世界で困っている子どもたちのことについて調べました。その中で、世界の子どもたちのために活動しているユニセフについての調べ学習を深め、自分たちができることとして、ユニセフ募金活動に取組み、全校の皆さんに協力を呼びかけました。
- ◆更には、1月22日の授業参観日に、手づくり品のバザーをして地域の人々にも協力を呼びかけました。本日は、山内東小学校の子どもたちや地域の人々の温かい思いがいっぱいだった募金、38,579円を手渡されました。



子どもの声

- ◆バザーで手づくりのコースターを1枚50円で売りました。コースターは布で作りました。コースターが売れたときはとても嬉しかったです。このお金で、世界の貧しい暮らしをしている子どもたちを助けてください。

ユニセフ出前授業

1月23日(水) 上峰町立上峰小学校6年生

- ◆6年生の皆さんは、総合的学習の時間に「世界に目を向けて」というテーマで学習をし、世界の様々な国や地域の子どもの暮らしを調べてきました。
- ◆今日は、「食料・エネルギー分配ゲーム」等を通して、私たちの「食」は大きく他国の資源やエネルギーによって支えられていることに気づき、自分たちの暮らしが他国の人々とのつながりの上に成り立っていることについて考えました。さらには、様々な困難な状況下で暮らす子どもたちの現状を知り、自分たちにできることについて考えました。



学習を終えて

- ◆外国にはストリートチルドレンの子どもたちがたくさんいることに驚いた。家にもどると親からぎゃくたいを受けてしまうため、マンホールにもぐりこんで暮らしているということがかわいそうだと思った。私は、欲しくても別に買わなくてもいいなあと思うものはやめて、募金をしようと思いました。
- ◆私は、多くの子どもたちが栄養不良や簡単に治せる病気で死んでしまっていることを知ってショックでした。私は教えてもらったことを伝えたり、募金活動に参加したり、世界のことに興味関心を持って調べたりしたいと思います。

募金贈呈式

1月20日(日)柳川市立矢ヶ部小学校

- ◆矢ヶ部小学校では昨年11月の「校区ふれあい祭り」でもちつき大会をして、地域の方々にユニセフ募金の協力を呼びかけたり、11月21日から10日間、児童会の皆さんが登校時に校門で募金協力を呼びかけたりしました。
- ◆本日は、日曜参観日で保護者の方や地域の方々のご参観のもと、募金の贈呈が行われました。「ぼくたちは世界の困っている子どもたちのことを色々勉強しました。どうぞ、そのような子どもたちのために役立ててください。」と、62,783円もの募金を託されました。
- ◆佐賀県支部では、人参・かぼちゃ・ほうれん草などの野菜を手にとりビタミンAの重要さをお話し、ユニセフは子どもたちの命を守るためにビタミンAカプセルを定期的に補給していることを伝えました。

